

ナイルの流れに

カイロ日本人学校 Noboru Ozawa



H.28.9.30

No.47

職場体験学習

今年度も中学部の生徒が、カイロ市内の日本企業に職場体験に行きました。次の4事業所にお世話になりました。

- ◆味の素
- ◆読売新聞カイロ支局
- ◆日本食レストラン「牧野」
- ◆JICA（国際協力機構）

味の素は、昨年同様**市場（スーク）**で**味の素の販売**を行いました。味の素は、日本の様々な食品に含まれていて、直接見ることは少ないと思いますが、エジプトでは、袋に入った味の素を販売しています。**エジプトの様々な料理に入れるとおいしくなり、エジプト人の口にも合うと考え、販路を拡大しているところ**です。現在は**まだ赤字**ですが、**人口9,000万人を超え**、さらに人口が急増しているエジプトは大きな市場になると考えています。

スークでは道行くお客さんに**声を掛けて手売り**をしました。今回、日本人とエジプト人のハーフの生徒と一緒に行きました。この生徒は、アラビア語ができます。でも、なかなか大きな声を出せず、お客様を立ち止まらせることができません。道を挟んだ反対側に、まだ小学生の高学年と思われる女の子が**モロヘイヤ**を売っていました。この女の子は、大きな声でお客さんに声を掛け、おそらくそのモロヘイヤのおいしさを伝えたり値段を交渉したりして、次々に売りさばっていました。日本人学校の生徒もそれを見て、待っているお客さんは買ってくれないことに気付き、だんだん大きな声で道行く人に声を掛けていきました。**まずは、立ち止まってもらうこと、その後味の素が何かを簡潔に説明し、値段の安さを手際よく伝えます**。そうすると、次から次へと売れていきました。売れるようになると生徒もおもしろくなってきて、さらに大胆にセールスを



4袋1ポンド（約11円）で販売



今回お世話になったお店のお兄さん



牛の頭部（食用です）

始めました。結局、**3日間（合計5時間）で、120袋（約1,360円相当）**を売りました。この生徒は、30℃を超す屋外の市場に立ち続け、**1,360円稼ぐ体験を通して働くことの厳しさや楽しさを味わいました**。働くということは、**遊びやボランティアではありません**。お金を稼ぐこと、社会的責任を果たすことを**ぼんやりとでも実感してくれればと願っています**。

スークは、本当にいろいろなものが売られています。左の写真のように日本人からするとドキッとすることもありますが、